

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第一輯）3

廣西師範大學出版社

東烏珠穆沁地方調查報告書

村田 熊三

目次

一、緒言

二、自洮南至東烏珠穆沁經過沿道ノ概況

三、東烏珠穆沁ノ位置、地勢、面積、戶口其ノ他

(1) 位置、旗界

(2) 地勢、山河

(3) 氣象

(4) 廣袤、面積

(5) 住民、戶口

四、東烏珠穆沁旗ノ沿革及政治一般

(1) 沿革

(2) 旗内ノ政治

イ、印務處

ロ、佐領

ハ、軍事

ニ、司法

ホ、教育

(3) 旗内ノ宗教

(4) 王府ノ現状

五、一般經濟

(一) 經濟的發達ノ過程上ヨリ見タル興安嶺東西兩側未開放地帶ノ差異

(二) 住民ノ生業

(1) 旗下ノ蒙古人

(2) 喇嘛

(3) 外旗移住民

(三) 住民ノ衣食住

(1) 被服裝具類

(2) 食料品類並飲料水

(3) 住居、家具及燃料

(四) 旗內蒙古人一家ノ經濟

(1) 中流階級者一家ノ經濟狀況

(2) 下層階級者ノ生活費

(3) 生活費ト物資ノ需給關係

(4) 旗內ニ於ケル各階級者ノ有スル家畜數竝増減事情其ノ他

(五) 旗內ニ於ケル商取引ノ現狀

(六) 東烏珠穆沁ト興安嶺以東ニ於ケル各地方トノ經濟關係概要

(1) 東烏珠穆沁ト洮南突泉竝其ノ一圓地方トノ關係

(2) 圖什業圖旗管内テレモト附近一帶地方ノ概況

(3) 洮南突泉及東烏珠穆沁間ノ運賃

イ、洮南突泉及六戸間ノ運賃

ロ、洮南及東烏珠穆沁間ノ運賃

六、洮南東烏珠穆沁間ノ鐵道敷設ト是ニ關聯スル概括的所見

東烏珠穆沁地方調査報告書

一、緒言

洮南ヨリ索倫ヲ經テ滿洲里ニ至ル間及通遼ヨリ林西ヲ經テ西烏珠穆沁方面ニ至ル間ノ踏査ハ大正十四年本社調査課ニ於テ之ヲ實施セラレタルモ上記兩方面沿道地方ノ中間ニ位置スル東烏珠穆沁管内ノ現地調査ハ嘗テ實施セラレタルコトナク殊ニ同地方ハ大興安嶺ニ依テ嶺東各旗地方ト阻隔サレ西北一帯ハ外蒙古ヲ控ヘテ政治的ニ其ノ交通ヲ遮斷セラレアル僻陬ノ地域ナルヲ以テ從來支那側ノ試ミタル對内蒙政略ヤ干涉モ之ヲ他ノ一般内蒙諸旗ニ比較スレハ其ノ波及ノ度漸弱ナリシヲ想ハシムルモノアリ從テ同地方ニ關スル調査モ亦社内外ヲ通シテ稍等閑ニ附セラレタルモノノ如シ

然ルニ去秋滿洲國成立後日滿國防協定ニ據リ國境防備ヲ嚴ニスル必要上今機我軍部ニ於テハ同地方一帯ノ調査ヲ實施セララルコトトナリ本社亦之ニ協力シテ同地方ノ産業開發上必要ナル諸種ノ調査ヲ一舉ニ實施スル

コトトナレリ

田來蒙古方面ノ調査ハ甚タ困難ナル事情存在スルヲ以テ一地方管内ノ調査ト雖短少ノ時日ヲ以テシテハ其ノ概要サヘモ捕得スルノ容易ナラサルモノアリ而シテ東烏珠穆沁管内ノ牧畜、地質、交通並一般經濟事情等ヲ詳カニスヘキ本調査班當初ノ日程計畫ハ洮南ヨリ往復二十一日間ト豫定セラレアリシモ調査班ノ洮南着後ニ於テ上記日程ハ二週間ニ短縮セラレ更ニ現地到着後滞在二日間ニ限定セラレタルヲ以テ本調査ハ之ヲ完全ニ遂行スルニ田ナカリシモ此ノ間能ク限リノ調査ニ努メ結局左記ノ如キ日程ヲ經テ之ヲ終了シ得タルモノナリ但シ其ノ歸路ニ於テ突泉著後連日降雨ノ結果道路泥ノ爲洮突間交通困難ニ陥リ砂ナカラサル日子ヲ同地ニ費消シタルヲ特ニ遺憾トス

東島珠穆沁管内調査日程表

年月日	出發地	到着地	滞在	摘要
昭和八 八三	大連			
八四		洮南		
八五 八一〇		洮南		車部ノ指令ニ依リ滞在
八一	洮南	突泉		
八二	突泉	テレモト (圖什業圖 未開放地)		
八一三	テレモト	ホーレンゴロ (達爾漢旗 未開放地)		
八一四	ホーレンゴロ	ノイナイ廟 (東島珠穆 沁管内)		當日ノイナイ廟著後東島珠穆 沁王府往復

尙今回ノ調査ハ前記ノ如ク旅行日程ノ制限ハ勿論終始軍用トラツクニ分
乗シ總テ自動車隊ノ行動ニ隨伴シタルヲ以テ調査班トシテハ隨時所望ノ

八 一 五	八 一 六								八月十五日ノノイ廟西北方約 七〇吉米ナル海拉爾街道上標高 五七〇地點ノ東南方約六吉米ニ 在ル一小高地附近へ往復
八 一 七	ノイ廟	テレモト							
八 一 九	ノイ廟	テレモト	突泉						
九 一									連日ノ降雨ニ依リ突泉洮南間道 路泥濘交通至難ノ爲滞在
九 二	突泉	洮南							飛行機ニ依ル
九 三					洮南				
九 四	洮南	四平街							
九 五	四平街								
九 六		大連							

地點ニ於テ豫期ノ調査ヲ遂行スルノ自由ヲ得ス通過途上ニ存在セシ部落人畜、山川草木及礫石土壤ノ類ニ至ル迄之ヲ雲煙過眼視シタル場合多ク其ノ調査方法ヲ異ニセルコト從來吾人ノ體驗セサル所ナリトス事情概ネ斯ノ如シ從テ本調査班ノ全努力モ到底完璧ヲ期シ難キ所アリト雖專ラ其ノ見聞又ハ研究セシ所ヲ基調トシテ以下其ノ所信ヲ述ヘテ以テ報告ト爲ス

本書中ニ於テ屢記載シタル度量衡及貨幣ニ關スル注意

一、一方地ハ四十五天地ニシテ約我三十二町四反歩、一天地（一晌）ハ七反二畝ニ當ル

二、一斗ハ約我二斗、一斤ハ百六十匁ナリ

三、價格ハ滿洲國貨幣ヲ標準トス

二、自洮南至東烏珠穆沁經過沿道ノ概況

但シ經過時間ノ順位ヲ基調トシテトラツク車上ヨリ 見シタルモノ及休憩又ハ事故ノ爲停車シタル時間ヲ利用シテ見聞シ得タル事項ノ摘要

東烏珠穆沁派遣調査隊、軍部側特派將校及地方側調査班等合セテ總員七十餘名ト之ニ要スル糧食、ガソリン其ノ他所要材料ヲトラツタ十八輛ニ輻載シテ出發シタルモノ内一輛ハ故障ノ爲突泉ヨリ後送サレ同地ヨリ下七福ニ由テ行進シ途中一止スル所改直モアリ從テ各車輦ノ行進ニモ遅延ヲ生シ易ク一齊ニ行進停止スルヲ得サリシ情況ニシテ吾等ノ便乗シタル車輦ノ如キハ其ノ最事故多カリシモノニシテ之カ爲終始自動車隊全般ノ行進ヲ妨ケタルコト甚大ナリ仍テ爰ニ其ノ經過ノ大要ヲ記スレハ左ノ如シ

但シ宿泊ノ際特ニ調査シタル事項（別記）及歸路ハ往路ト同一徑路ナリシヲ以テ之ニ關スル事項ハ共ニ之ヲ省略セリ

八月十一日（戸數及牲畜數ハ主トシテ車上ヨリ見タル推定概數、時間ハ

分以下切捨トス以下同シ

午前六時五十分 洮南兵營出發西進約十八吉米ノ地點附近ニ於テ新ニ

(三、一〇時間) 道路構築中ナルヲ見ル更ニ數吉米ヲ進ミ一部落ヲ過ク
(三六吉米)

同 十時〇分 新立屯通過牛一二〇、馬二〇、山羊一六、高粱、粟、

(二、二〇時間) 玉蜀黍、梗黍(散迷子)馬鈴薯等ヲ見ル、土壤、冲積
(二〇吉米)

層黄土質粘土、本部落附近ニ井戸五、概ネ飲用ニ適ス
放牧ニ適スル一大草原ヲ過ル犬コロガシ、パレンシバ
ニワホコリ、葎、甘草、蒙古蓬等ノ雜草繁茂セリ蒙古
蓬ハ秋期純白ヲ呈ス羊ハ好テ之ヲ食シ毛質ヲ良クスト
謂フ

午後零時二十分 停止、晝食及トラツク修理ノ爲洮南利民洋行バス二

(二、五〇時間) 臺通過、一臺ノ乗客八、九人

同 三時〇分 出發

同 六時十分 水泉通過、六戸、牛三〇、地味井水共ニ可良

一〇、三〇時間
三吉米

玉蜀黍、粟、黍、大麻子、煙草、藍、細葉百花牡丹、大陸高粱、柳（柳ノ細木ニシテ堅實最長、剝皮容易ナリ土人ハ之ヲ以テ柳行李及水桶等ヲ造ル）

午後六時四十分

人家四、五戸、地味概シテ可良、高粱、粟、蕎麥、

一〇、三五時間
一〇吉米

小麻子此ノ間大波狀形地點ヲ通過ス路北約五百米突附

同 八時十五分

近ニ人家セ、八戸、高粱、小麻子等ヲ見ル

一〇、五時間
五吉米

同 九時二十分

突泉著、同地小學校ニ宿泊ス

洮南突泉間合計

行進
停止

一、一〇
二、五〇

一四〇〇時間
九六吉米

八月十二日

午前八時 突泉出發同十五分牛馬各二〇、同二十分路南八〇〇米突附

近ニ二、三十戸、同三十分小流ヲ渡ル、同三十六分人家五、六戸、

同四十分牛五〇、同四十五分路北ニ三戸地味概ネ可良、高粱、粟、

大豆、蕎麥、小麻子、大麻子

午前九時八分 路北ニ人家十戸此ノ附近ノ住民ハ滿蒙混交、喇嘛卿宅
一戸（ラマ卿宅トハラマヲ廟ヘ出セシ民家ニシテ凡テ屋上ニ白旗ヲ
樹ツ）

同 九時十分 停止（突泉ヨリ一〇時間二二。七五吉米）

（休憩 地名、オムチンゴロノ一部ニテハ一アルタイト呼フ十戸四
二〇分）○人其ノ一半ハ蒙古人附近ニ一小流アリ河底堅ク深サ一尺

程度ナルモ年間流水渴ムコトナシト謂フ

同 九時三十分 出發

（五分間
一・六二吉米）

同 九時三十五分 停止、東烏珠穆沁王府特派ノ使者一行四名ト邂逅
（一〇分間） ス司令官ヘ贈呈スヘキ馬匹一頭ヲ携行シ日軍歡迎

同 九時四十五分 出發
ノ意ヲ表ス

同 九時五十五分 分水嶺ヲ越ユ低地ニ蕎麥、粟等ノ作物アリ

同 十時六分 五戸高粱、粟、煙草

同 十時十一分 停止（前停止地點ヨリ二十六分間八・三二吉米）

（休憩
一九分）

柳條子溝三〇戸一五〇人、耕地一三〇晌（一晌ハ我約七反
步）井戸二（清水）、豚三〇、馬三、牛六五、驢一〇、農

作物、高粱、粟、蕎麥、其ノ他

井戸、直徑四尺、水面迄二六尺四寸、水深五、六尺、水溫

六度、無色舊十一月末頃ヨリ二月末迄結氷舊三月初解氷、

降霜ハ舊八月初

同 十時三十分 出發

（一八分間 六・八二吉米）

同 十時四十八分 停止

牛四〇、驢一〇

同 十一時十分 出發（車輛事故ノ爲ニ二分間費消）

同 十一時二十六分 人家一〇、牛四〇

同 十一時三十五分 停止（前停止地點ヨリ二五分間一一・〇五吉米）

（晝食ノ爲
休止二時間）

車家屯（車家營子）一五、六戸、七、八〇人内三戸一五、

六人ハ滿漢人

井戸三、稍不潔、牛五〇、羊三〇、驢二〇、豚五〇、牛車
一五、畑六方地（約一九五町步）一畠（即チ一天地我約
七反步）收穫、大豆二石、高粱四石、粟二石五斗、作附
步合大豆五割、粟三割、高粱一割、其ノ雜一割作糲良好
ノ場合ノ收穫量大豆四〇〇石、粟二〇〇石、高粱四〇石
大豆一斗（我約二斗）三〇錢、粟一斗三五錢、牛二〇圓
驢五圓、緬羊二圓、山羊一・五圓、羊毛一斤一五錢、通
貨滿洲紙幣

午後零時三十五分 出發

同 四十二分 路南二六戸

（二〇分間）此ノ間沿道附近二三〇戸點在
六・五吉米

同 五十五分 停止、西南約八百米突二一〇戸

（停止二〇分間）小流渡過ノ爲一時停滯

午後一時十分 出發

(八分間二・六吉米)

同 一時十八分 停止、哈拉達哈

(停止二五分間)

六戸、六〇人、其ノ一半ハ蒙古人
他ノ一半ハ滿漢人、井水無色無臭
蕎麥、粟及高粱(僅少)單位收穫
量何レモ三石程度、牛五〇、馬六
驢二〇

同 一時四十三分 出發

七分間

(二・二八吉米)

一部)

此ノ間七、八戸、牛七〇、羊八〇(上記哈拉達哈ノ

同 一時五十分 停止、テレモト著、圖什業圖王公ノ親戚ト稱セラル

ル大農家ノ外附近ニ散在シアルモノト合セテ三〇戸及牛六〇、馬一

〇ノ放牧セラレアルヲ見ル(本村概況ハ別項ニ記ス)

午後二時過宿舍割決定、本社調査班ハ支那雜貨舗ニ投宿ス(興安南

分省、吐裡毛頭、榮興長

突泉テレモト間合計

進行
休止

三、三四
二、五六

六、三〇時間

行程

六一。九四吉米